

東由利町報

No 283 昭和53年10月1日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



No 283

10
/ 1

《順調に進む島根牛導入》

9月20日深夜に島根を出発した子牛30頭。11t 積みの大型トラックに揺らり揺られておよそ30時間、新しい飼い主の待つ東由利に着きました。皆、長旅にもかかわらずすこぶる元気。

ホッと一息つくヒマもなく、彼らは仲間と別れ、これから暮らすわが家へと散っていきました。

(関連記事3面)

ライスセンター 低温倉庫が操業開始

町農業史に新たな一ページ

東田利農協が老方字女夫坂（台山代行路線沿い）に今春から建設を進めてきましたライスセンター及び低温倉庫がこのほど完成し、センターは九月十九日の公開試運転のあと二十二日から本操業を開始しました。



処理能力 270haのライスセンターと31,200俵収容できる低温倉庫

今年の利用は
およそ百俵

ライスセンターは、二七〇〇（六十）玄米およそ二万四千三百（百俵）・一日当り十三・五畧の処理能力を持ち、鉄骨造り一部

四階建て、延べ床面積四四六・七平方メートルとなっています。

センター利用は、生粳、半乾粳、乾粳、粳すりのみ、のいずれもでき、品種は、ヨネシロ、やまてにしき、アキヒカリ、キヨニシキ、トヨニシキの五つを原則にしており、これ以外の品種の利用については農協に相談してほしいとしています。

農協では今年の利用面積を、全体でおおむね百畧と見込んでいます。

料金はその利用形態によって異なり、今年の場合はおよその目安として別表のようになって

います。

また、米代金は本検査終了後（稲出荷後七〜十日後）に各人の貯金口座に振込まれる仕組みになっています。

庫内温度は常に十五度以下

低温倉庫は、ライスセンターのすぐ隣に建設され通路で接続されています。

これは、鉄骨と鉄筋コンクリート造り平屋建てで、延べ床面積九七七・七平方メートル、工事費約一億円、収容能力三万二千二百俵となっています。

また、庫内の温度は常に十五度以下に保たれるようにサーモスタット付きの冷却装置も設備されているほか、一寸でも開けばエアーカーテンが降る自動扉、常時穀温を記録している穀温記録計も備え付けられています。

利用形態による料金指標

(10アール当り)

	利用料金の明細	利用料金
1	コンバイン+運搬+ライスセンター (水分23%乾燥 粳すり 調整 出荷) 10,000円 606円 12,420円	円 23,026
2	バインダー+コンバイン脱穀+運搬+ライスセンター (1束25円) 5,000円 606円 12,420円	円 18,026
3	個人刈取+運搬+ライスセンター (生粳) 606円 12,420円	円 13,026
4	個人刈取+運搬+ライスセンター (半乾) (水分18%以下) 606円 7,560円	円 8,166

- 注 1、料金の算定基準は10アール当り9俵（玄米）で算定したものです。
2、上記利用料金の中には麻袋代は含まれておりません。

町長日記

○ 明年度事業採択を予定している、深山開拓道路の路線調査をする。石高農道を起点として不動滝周辺を終点とする道路計画である。目的は開拓農家の利便であるが、八塩観光の有力なルートにもなる。

○ 出稼リーダーの研修会 春四月に帰町した皆さんが、出稼準備の時期となる。職場選定、健康管理、安全就労。

○ 住吉地区の交通安全塔除幕式。地区の交通安全協会交通安全母の会、住吉小学校PTAに依って実現せるもの。この地域は、県営圃場整備と関連して県道改修が実現するので交通量の増大が予想されるタイムリーな企画。

○ 一〇七号線の改良期成同盟の総会を有鄰館で開く。根本衆議院議員、野呂田参議院議員と道路関係の御二人の国会議員の臨席。県土木部からは杉本次長、小川平鹿地方部長、由利平鹿両土木事務所長、道路課長、関係市町の首長、議会議長が出席。現況説明、情報交換、明年度予算要望に就いて協議す。本町では蔵工区の大橋予算獲得、板戸地区から館合バイパス間の促進が目下の課題である。

○ 有鄰館で市郡の酪農家の現地交流会。酪農家の努力

○ 島根より子牛到着。購入数、今回は三十頭。

○ 議員全員協議会、商工会館建設と、ライスセンター運営に就いて。

○ 各市町村のごみ収集担当者との研修会（会長斎藤幸益氏）於若林湯。清掃業務は社会生活の縁の下のである。ごみ処理、環境清掃に就いては町民の一層の理解と協力を。

○ 県町村会教育厚生委員会、五十四年度予算に関して政府への要望事項協議。危険校舎改築事業の充実強化、遠距離通学費補助制度の改善実施、保育所の設置枠の拡大と定員変更による増改築補助、県単児童館設置費補助金の増額、老人居室整備資金貸付限度額の引き上げなど。



繁殖素牛改良の基礎牛に

回回島根牛導入回回

今回は30頭を購買

県外の肉用牛飼養先進地から優良素牛を導入し、町内の繁殖素牛の改良と系統の整理を図ろう——と町では、昨年から三カ年計画で島根牛一〇〇頭を導入することにしています。

二年目に当たる今年は、去る九月十四日から二十二日まで、町農協、由利畜連の職員を派遣、雲南家畜市場で二十頭、東部家畜市場で十頭を購買し、二十二日朝には農協玉支所前で待つていたそれぞれの農家に引き渡されました。

尚、今年の導入計画は五十頭となっており、車詰みの関係もあって、今月の中旬に再び職員を派遣、さらに二十頭購買することになっています。

今回導入された牛は、最高価額五十三万七千円、最低価額二十七万八千円、平均価額三十八万六千三百六十七円、平均体重

ズラリ並んだ島根牛に導入者の眼差しは熱い

二百四十八キ、一キ当り価額千五百五十九円となっています。

導入者の一人、新町の小松運一さんは、「導入牛の中では安い方の牛ですが、自分としてはいい牛が来てくれたと喜んでいきます。今後が楽しみです」と話していました。

三者が一体となって

町内における繁殖牛の飼養頭数も年々増加し、その規模も一、二頭飼いか四、五頭飼いへと

納税意識の高揚を

町納税貯蓄組合連合会

税への理解を高めよう——と先

ごろ、町納税貯蓄組合連合会では、町内各小学校の六年生を対象に「納税意識を高揚させるための標語」を募集しました。

集まった作品は全部で五十九点で、そのいづれもが子どもたちの税金や納税に対する率直な感覚が表現されており、甲乙つけがたく、審査にあたった同連合会役員や役場税務課職員らを悩ませました。

厳選な審査の結果、入選六点到秋田県納税貯蓄組合連合会長賞が、佳作九点到本荘市由利郡納税貯蓄組合連合会長賞が、これに次ぐ作品四十四点到町納税貯蓄組合連合会長賞がそれぞれ贈られました。

同連合会ではこの標語を広く町民の間に周知し、一層の納税意識の普及高揚を図りたいとし

多頭化の傾向を示し、その飼養技術も着実にレベルアップされてきているといわれます。

しかし、体型や資質などは先進地に比べてまだまだ改良の遅れている面が多く、市場や肥育農家の評判も決して良いものばかりとはいえません。

今後は、導入計画されている一〇〇頭を基礎牛としながら、種牡牛を選定し、系統交配を行い、優良素牛を生産、さらにそれを町内に保留することによつ

で標語募集

ています。

入賞者の氏名および作品は次のとおりです。

◎入選

・納税完納

みんなでのばそう東由利

大塚裕之(住小)

・納税で明るいわが家

わが町わが国土

佐藤敬子(袖小)



・税金を

納めて明るい父の顔

小松美奈子(玉小)

・お父さん

税金完納忘れずに

佐藤秀一(玉小)

・納税は

明るい町の第一歩

阿部ひとみ(蔵小)

・住みよい社会は

わたしとあなたの納税で

佐々木康一(宿小)

◎佳作

・税金をおさめて安心

よい家庭

・税金をおさめてみんなで

しあわせづくり

・みんなで納税

小松久美子(住小)

・すみよいくらし

佐藤 渉(玉小)

・税金はわれらのつとめ

忘れずに

・税金はみんなのための

愛のかけ橋

・すみよい社会

納税完納

・明るい笑顔で税金おさめ

住み良い町を作りましょう

・納税は

明るい生活くらしの輪

・明るい笑顔で

納税貯蓄

・税金は

岩井敏貴(蔵小)

・税金は

猪股一夫(宿小)



甲乙つけがたい作品に審査も難しい

九月定例議会

町議会第八回定例会は、八月二十一日に招集されました。開会に先立ち町長の町政報告があり、続いて会期を同日一日限りで決定し、三議員による一般質問のあと、昭和五十三年一般会計補正予算など六案件を審議、いずれも原案どおりに可決、さらに三件の陳情案件を審議して閉会しました。町政報告と一般質問の要旨および議決された案件等は次のとおりです。

町政報告

前回報告したものとダブル点もあると思いますが、現在における町政の概況の要点を申し上げます。

明年度予算案計上したい事項、公共事業に採択を陳情する事項等々について申し上げます。

この前も申し上げましたが、開拓道路、これは現在測量中です。本議会にも関連した提案があります。三千四百八十、これは明年採択ができるように努力していきたいと思っています。

次に、須郷と土場沢林道を結ぶ線、約千二百メートルありますが、これは一般農道として採択を陳情する考えです。現在測量の概況は終了しています。

それから、本年度で一般林道の着工路線がなくなりますので、明年は黒沢のボツメキ線を採択できるように陳情しております。

現在、農業関係で計画し、かつ作業をしていますのは、新農業構造改善事業、これは宿部に設定しまして約三億円の事業計画を作っています。

農村総合整備計画、これは十一月の初旬に国土庁のヒヤリン

グを受けるべく準備をしています。

それから、農村モデル事業ですが、十一月の下旬に仙台の農政局とヒヤリングができるように作業を進めています。

本年度予算において追加予算が見込まれておりますのは、国道一〇七号線の板戸地区で、今年度の全体の事業費は九千九百万円になる予定です。

県道関係ですが、山崎鴻屋線は本年度中に一〇七号線の取り付けから田屋橋までを完成したい。残が二百二十メートルあり、補正財源にして二千五百万、これは現在県会で審議中でありますけれども可能だということです。

それから、昨年に引き続きまして黒沢線の改良事業費が千二百百万円予定されているようです。ミニ総パ事業でも追加の予定があります。これはまだ金額がはつきりしていませんけれども、約六千万円程度の追加があるようです。

以上、明年度の採択陳情、今年度の追加についてご報告申し上げます。

次に、山村振興事業として町が発注しております、高村、黒沢、奥ヶ沢の水道工事ですが、

これは近々完成の予定です。

次に先般商工会から陳情のあった商工会館の建設ですが、今後皆様と協議をして決定したいと思っております。あの陳情にありますが、二七〇万円はいろいろな角度から考えまして、町の補助としては高額だと考えます。

しかし、現況において、商工会およびそれと関連しながら老方地域の会館ということの要望がありますので、これはなんとか工夫をして明年中の事業にのせていきたいと考えています。まだ具体的な詰めをしていないので今のところはつきり申し上げられません。九月中旬に県の方に意向を示さなければいけないという予定のようですので、近々これは方針を立てましてご協議したいと思っています。

それから、庁舎内外の整備もお陰様をもちまして一応完成しました。これを機会に、玄関前に町旗掲揚のポールを建てたわけ。旗日には国旗を掲揚し、一般には町旗を掲揚しまして、町職員および町民の町意識の高揚に資していきたいと思っております。

次に、山村振興事業として町が発注しております、高村、黒沢、奥ヶ沢の水道工事ですが、

という名称を自治会長というふうに変更したいこと、等について説明——
以上をもちまして町政報告を終えます。

可決された案件

【昭和五十三年一般会計補正予算（第五号）】

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ五千九百十五万四千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ二億一千五百六十万五千円とした。

主な歳出予算は次のとおり。
・老人居室整備資金貸付金六十万円・水田利用再編対策現地確認貸金等事務費二十八万五千円・出稼営農改善特別対策費四十七万二千円・計画転作推進費補助金百三十二万八千円・転作促進機械施設整備事業費補助金三十七万二千円・団体営草地開発整備事業費工事関係費二百九十三万一千円・開拓地道路測量委託料三百万円・田代地区農地造成取付道路工事費四百三十万円・小田橋用地費百六十一万円・新農業構造改善事業計画事務費百五

万円・保育作業道開設事業費補助金七十三万五千六百円・枝打ち促進事業費補助金二十八万七千円・発明工夫展開催運営費補助金十四万四千円・道路新設改良測量委託料三百八十三万四千円・山谷橋架替工事費四百五十万円・石塚橋架替工事費五百五十万円・石田坂橋幅設計委託料五十万円・消防機械置場建築工事費二百四十万円・小学校社会科副読本作成費百四十万円・金山線等林道災害復旧工事請負費二百三十三万三千円・石高農道災害復旧工事費三百二十一万七千円・新沢線災害復旧工事請負費六十一万七千円・黒沢川等河川災害復旧工事請負費二百六十八千円

【昭和五十三年簡易水道事業特別会計補正予算（第三号）】
歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ十二万五千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ二千五百三十二万四千円とした。

【昭和五十三年度団体営草地開発整備事業費の賦課基準を定めることについて】
・負担金の賦課基準

草地関係受益者の利用面積割とする。
・負担金の徴収時期
事業費負担分については、町長が定めた期日とする。
・徴収方法
負担金は金銭をもって、普通徴収の方法とする。

【農業用施設災害復旧事業の施行について】
昭和五十三年六月発生地震災害に係る農業用施設災害復旧事業を次のとおり施行するものとする。

・地区名——石高
・工種——道路
・事業量——三・〇畝
・事業費——三、二一七、〇〇〇円

【町道の認定について】
・路線名——八塩線
・起点——田代字石高（石高農道接点）
・終点——田代字ヨシヤチ二五
・延長——三、四八〇畝

【教育委員の任命につき同意を求めることについて】
九月底をもって任期満了となる教育委員に伊東知也氏（蔵55歳）を再任した。

三議員が一般質問

福祉行政について問う

長谷山喜市郎議員

現在の社会福祉協議会の事務局体制では十分な活動は難しいと思う。社会福祉

協議会の在り方と、福祉に対する町長の考え方を伺いたい。

町長 社会の進歩によって、現代の福祉は行政が先行する形になっている。
行政としては当然福祉対策はやっていく。しかし、社会福祉の原点は、住民一人ひとりの生き方の中にお互い助け合う心であると考える。



集落農場リーダー育成など

四項目について問う

阿部 剛 議員

この度の干ばつによる牧草の枯死は畜産農家にとって一大事である。その被害面積と対策について伺いたい。

産経課長 八月三日現在の被害面積は約三十畝となっており、追播するなど再生を図っている。今年再生不能の力所について、来年追播するよう指導していく。

集落農場化事業が成功するか否かは、すぐれたリーダーがいるかどうかにかかっていると思われる。そのリーダー育成に本腰を入れるべきと思うが。

町長 予算的、行動的に必要なものについては、町、農協、社会教育関係ともタイアップして措置していきたい。

(中学校) 体育館は体育のみならず、あらゆる教育の場として活用されているものの、冬期間の使用はどうしても制約されると思われる。既存の建物のままで暖房施設が可能と聞いているが、経済性と合せ一考する気持がないか。

町長 必要ということについては賛成だが、今すぐやるとはいかない事情もあると思われ、今後の研究問題としたい。

住吉小前に交通安全塔

登下校時安全呼びかけ

交通事故をなくして明るい家庭づくりを——と、住吉小学校前の県道羽後向田館合線の道路端に、鉄骨トタン張り、高さ七九センチの「交通安全塔」が建てられ、八月二十八日には除幕式を行い無事故を祈願しました。

これは、住吉交通安全母の会(佐藤良子会長、四十八名)が中心となって町や交通安全協会に働きかけ、三者が資金を出し合い、五十三万九千円を投じて建立したものです。



無事故で明るい家庭…の願いがこめられている交通安全塔

いよ、わき見無灯火二人乗り」、「これ位、それが心の赤信号」

「事故をよぶ、酒が疲労がスピードが」の交通安全標語が大きく書かれているほか、自動タイマー付きのカセットとスピーカも取り付けられており、子供たちの登下校時、及び午後六時

わが町の事業等については町報を通じ、町民の理解を深めているが、町の進展主要な行事、又景観等を盛り込んだ行政カレンダーを作成し、住民意識の高揚を図るべきと思うが。



明五十四年度宿小学校の給食が計画されていると聞くが、未実施校との関連をどう考えて行おうのか。

教育長 教育委員会では、学校給食の基本的な考え方として、諸条件を考慮し、学校単独方式の方がよいと協議している。

先に提出した町の長期計画では、改築した学校から実施して

ボツメキ線改良など

四項目に質問

川尻幾郎議員

いくとして

東由利水道の拡大に供なう水源の調査はかなり前から綿密なものが出来てると思われるので、今年の水不足から見ても明年度から事業実施にふみ切るべきでないか。

町長 事業費や補助金、起債等の詰めが不十分なので、明年度の

には一般の通行者、ドライバーへの交通安全に対する注意やPRを毎日呼びかけるようになっています。

除幕式を終えた母の会の会員たちは「…交通安全の犠牲になりやすいといわれる子供と老人を事故から守り、家族みんなが明るく暮らせる家庭づくりを進めたい」と話していました。

町内における死亡事故ゼロは来る十二月二十四日で二千年に達します。

町民一人ひとりが、この安全塔に誓い、お互いに注意し合い、さらに記録を延ばすとともに、事故のない町づくりを進めることが望まれています。

からの実施は無理と考える。

町政報告で、ボツメキ線が来年採択されるよう陳情しているというが、ボツメキの景勝と涼を求めて訪れる人が年々増えており、工事が二年、三年とのびる様であれば局部的に生コン舗装等すべきと考えるが。

町長 来年度工事着手しても、急配、急カーブ等の力所については工種は別にして、調査の上解決していきたい。

最近、道路の改良整備が急速に進んでいるが、小作地の場合、買取代金の配分について地主対小作人の関係はどの様に行われているのか。例えば離作料的なものはどのようにして支払われるのか。

助役 この問題は非常に複雑であり、貸借間で決めるべきもので、町としては地主、小作相手の話し合いで解決してもらうようにしている。

陳情案件審議

このほかに議会に対して陳情された、館合新田と上の台を結ぶ道路の改修については採択、有事立法阻止について政府に意見書を提出していただくことについては不採択、又、第六回定例議会教育民生委員会に付託された、教職員定数抜本改正をするため関係各省庁へ意見書を出していただくことについてはさらに継続審議とすることになりました。

助け合いの輪を広げよう

赤い羽根で親しまれている国民助け合い共同募金運動が、今年も10月1日から始まりました。しあわせでありたいと願う心は誰でも同じです。みんながしあわせに、を合いことばにこの助け合いの輪を大きく広げましょう。

共同募金

10月1日
から



第11回 町民運動会

今年で十一回を数える町民運動会は去る九月三日、台山グラウンドで行われ、約四千人の老若男女が秋の取り入れを前に楽しい一日を過ごしました。

競技種目には、部落対抗のレクリエーション的なものも多くあり、「体力づくり」と合せて「地域の人の和づくり」にも大いに役立ったようでした。

結果、大琴部落チームが三年連続して優勝を、館合新田チームが準優勝を飾りました。



▲ オリンピック顔負け…堂々の入場行進

これで総合優勝がきまる
それ引け、やれ引け

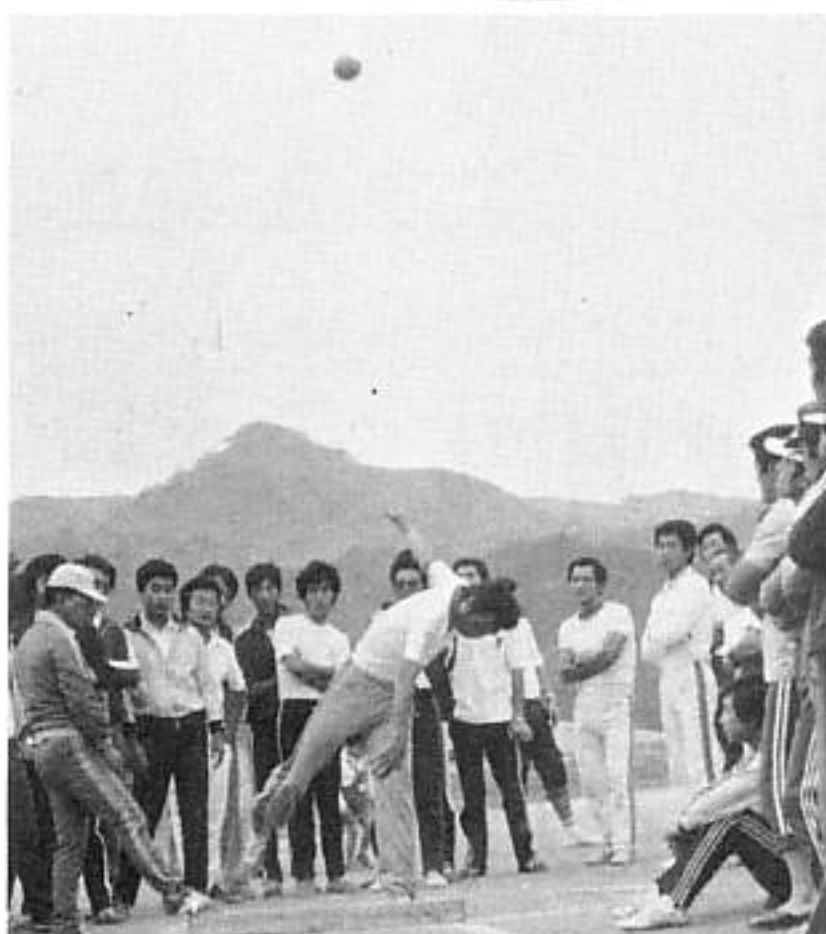


▶ 分館対抗リレー
ゴール前のデットヒート



▶ 応援賞はいただきます
サアいつてみよう「横渡音頭」

▶ あわてず、すばやく
これが難しい



▶ 今年は新に
砲大投げも競技種目に

▶ 昼休みには東中生徒の
ブラスバンド演奏も





宿青年会員による創作劇『たけのこ』

九月九日夜、宿小学校体育館で、旧校舎お別れ、第七回宿演芸会が開催されました。

同校は明治七年十月に建てられたもので老朽化が著しく、危険校舎とみなされ、現在国の補助を受けて鉄筋コンクリート二階建ての校舎を同構内に新築中で、これが完成すれば現在使用している校舎はすべて解体されることになって

います。

演芸会のプログラムには、宿小児童の遊びや器楽合奏などの他、各部落の趣向をこらした踊り、青年会員の創作劇や踊り、石沢民謡同好会員による民謡等、盛りだくさん組み込まれ、広い会場いっぱい詰めた約五百人の人たちは、楽しい初秋の一夜を過ごしました。

第7回 演芸会

旧校舎お別れ記念



旧校舎お別れ記念演芸会フィナーレ

来年のこの日を楽しみに

第7回 宿演芸会

旧校舎お別れ

集った観客約五百人
一つひとつに盛大な拍手小さなU・F・O大熱演
この日一番の大拍手ひまわり会(大琴)による
踊り『さくら音頭』

季節の変わり目にもいろいろあります。秋から冬への十月という月は、スポーツのシーズンで体力を鍛えきこの狩りや紅葉見物と行楽期であり、また結婚シーズンでもあります。

さて、結婚式で重要な役目をするのが媒酌人。つまり月下氷人です。お仲人さんをなぜ月下氷人というのか、中国の古い伝説はこう説明しています。

昔、中国に学問もあり真面目な青年がいたが、内気なためガールフレンドが得られなくて悩んでいました。

ある日夢の中で自分が氷の上に立っていて、氷の下にいる若い娘と語らっているうちに結婚の約束をしました。ところが夢がさめてみるとほろ苦い思いだけが残っている。そんなある日、町で夢の中の人とそっくりな娘さんを見かけ、今度は積極的にアプローチ、やがてめでたく結婚にゴールインしました。

この二人を結びつけたのが月の夜、氷の下にいた娘だったことから、媒酌人を月下氷人とロマンチックな呼び方をするとされて

一 滴

海外研修レポート①

七月一日号で紹介しましたとおり、七月から九月にかけて当町の四人の方が、県で実施している二つの海外研修に参加しました。

それぞれ二週間の旅程でしたが、個々の立場において何を知り、何を感じたかをレポートしてもらいましたので、二回にわたって紹介します。

今回は「訪ソ青年の船」、モスクワ・中央アジアコースに参加した小松忠孝さん、モスクワ・キエフコースに参加した佐藤悦子さんのレポートです。

ソ連を旅して

佐藤悦子 (蔵新田)

淋しさ漂う日本人墓地

「いつてらつしやい」の声と色とりどりのテープが交錯するなか、プリアムーリエ号は静かに岸を離れる……感激の出航であった。

まもなく時計を一時早めるようにとの船内放送があり、私たちの旅は始まった。未知へのあこがれと夢をのせ、プリアムーリエ号は日本海をすべるように進む。生まれて初めての船旅はとても快適であった。

秋田港からわずか二十五時間、そこが世界の超大国ソ連であるとは、どうしても信じられなかった。

初めて異国に來ていると感じたのは、日本人墓地に詣でた時である。小高い丘の上に整然と

く続く……まさに大陸であった。しかし、そのほとんどが未開発の土地であり、眠っている資源なのである。

継承される歴史と伝統

私たちが訪れたのは、モスクワ、レーニングラード、キエフとソ連邦の歴史が刻まれた古い街である。ポブラとマロニエにうもれ、厳然と建つレンガ造りの建物、足もとの石だたみ、壮麗を極め尽くす古い建築物、すべてがロシアの歴史を伝え、栄華を物語っていた。

また、それらの歴史、伝統を守り続けようとする意志が、市民の一人一人にまで浸透しているのを感じ、それは彼らの異常なまでの愛国心からきているものであることを知った。「歴史

伝統のない国は国ではない」と言ったひとりのソ連青年、それは祖国愛を如実に物語っていた。

芸術、文化水準の高さ、その底辺の広さにも目をみはるものがあつた。どこの街にもいたるところに劇場、美術館、映画館等があり、ほとんど無料で近い料金で市民に開放されていた。

ほかに娯楽施設のないソ連の人々は、冷たく長い冬の余暇をここで過ごすと言う。サークル活動としてのアマチュア劇団が五〇万もあり、演劇人口三〇〇万人というのも底辺の広さを裏付けるものである。たまたま訪れた家庭でも蔵書の数の多いのに驚いた。不必要な物は一切見あたらない寂寥とした部屋の中に本がところせましと並べられていたのである。「本が好きなんですか」と聞くと、「いや、この位の本はこの家でも備えてあります。私たちは本こそ知識の源だと考えていますから……」

ロシア民謡、バレエを生み、トルストイ・ドストエフスキー



老人ホームのおばあさんと語る佐藤さん

をはじめ、偉大な芸術家、文豪を数多く生んだロシアの文化の伝統は確実に現代に引き継がれ、底辺を広げながら市民の生活の一部になっていると強く感じた。街を歩いて目についたのは肖像の多いことである。レーニンの肖像はモスクワ市内だけでも百以上あるといい、英雄崇拜と同時に暗黙の思想啓蒙がなされているのを見た。そのほか、公園、大通り、劇場などにもほとんど有名な人物の名まえがついているのは、先人崇拜主義の現れであろう。

徹底した教育方針

私たちは、キエフ郊外のピオネルキャンプ場を訪問することができた。あらゆる施設が完備された大自然の中で、三五〇人の子どもたちが団体訓練に励んでいた。ソ連の子どもたちは、夏休みのうち一カ月をキャンプ場で過ごす。子どもたちを指導しているのは、コムソモール（ソ連共産党青年同盟）の青年たちであり、規律訓練、労働教育と共に、愛国心と共産主義思想を徹底的に教えこむ。キャンプ場の中に日課標が立てられている。子どもには過酷なほどの、朝七時半から夜十時までの一日の日課がびつしり書き込まれていた。このようにソ連では、家庭、学校、社会が一体となって徹底した社会主義教育を行っている。子どもは親の財産であると同時に国の財産でもあるのだ。あまりにも利口すぎる子どもたちに淋しさを覚え、ふつと夏休みを満喫しているであろう日本の子どもたちを思った。

たくましいソ連女性

ソ連の女性は、たくましくよく働く。ソ連に於ては男女は全く平等であり、能力さえあればどんな道でも振れている。私たちも多くの働く女性を見かけた。寝台車の車掌、路面電車の運転手、電線工場で油にまみれて機械を操作していたのも女性であった。その他いろいろな職業に

女性が進出し、リーダーになつて活躍していた。愛国心に燃え、使命感を持つて社会で活躍する婦人たちの自信と指導力、それはピオネル、コムソモールの一貫した団体訓練で培われたものに違いない。女だからという甘えなどみじんも感じさせなかったソ連の女性たちはあまりにもたくましく、力強く映った。

社会主義体制の欠点

ソ連人の生活は質素でつましい。節約を重んじ、むだな物は一切ない。共働きでようやく生活ができる程度の収入、消費物資の不足からみて当然なのかもしれないが、国の繁栄のためひとりひとりが辛抱し、目標に向って邁進している姿が、私たちの目にもありありと見えた。開店を待つてデパート前を埋める人の群れ、果物を求めて街角に作られた長い行列、ここにも生活物資の不足が伺えた。日本の六〇倍の土地を有しながら、日本の二倍強の国民の食糧をまかなえない時があるという。

それは、農業の生産性に問題があるように思えた。私たちは、ソフォーズとコルホーズを見学する機会があった。ピニールハウス、大型機械を取り入れて近代化農業を営んでいた。しかし、ここでは独創的な農業ができないう。農民の役割は、与えられたノルマをこなすことなのだ。「生産性を高めるような工夫はしていないのですか」と尋ねると「私たちは、とにかく一生けんめい働けばいい。そうすれば自

然に収穫も多くなるはずですが」社会主義体制の一つの欠点を見たような気がした。

平和への祈り

二週間という短期間で、私たちが見てきたのはソ連のほんの一部分にすぎない。しかし、完備した社会保障制度、一貫した

ソ連に着いた私達を最初に迎えてくれたのはかわいい子供達でした。

笑顔で花束を持って「ズラー スチエ（こんにちは）」

共産主義ということで堅い国だというイメージを持っていた私達はホッと一息ついたような気持ちでした。

研修旅行中私達は、友好と親善ということでもいつもにこやかな笑顔で迎えられました。最初に、日本人墓地を参拝し

教育方針等学ぶことも多い。一方、平和を叫びながら軍事教育が義務づけられていることに大きな矛盾を感じ、あの第二次世界大戦の悲劇が今なおソ連人の心に生き続けているのを知った。戦没者の慰霊碑、無名戦士の墓には、今も絶えることのない火が灯されている。私たちは

ました。

日本人墓地は、郊外の静かな林の中に綺麗に清掃されておりました。

私達は日本から持っていた水やタバコ、酒などを供え、団員の中にいた僧侶が経を唱えました。

愛国心の強いソ連の人々

小松 忠孝（山崎）

ナホトカから

ハバロフスクまでは列車で一泊。ハバロフスクからモスクワまでは飛行機で八時間。

しかし、時差の関係で実際八時間乗ったのに、時計の針は二時間しかすすまない。これで最初にまいってしまいました。

泊ったロシアホテルはものすごく大きくて、

只今気温41℃、酷暑をしのぐ子どもと一緒に小松さん



は結婚式を終えたばかりのカップルがウェディングドレスのまま慰霊碑の前で無心に手を合わせているのを何度か見かけた。戦後三十余年たった今でも、その習慣が続けられていることに驚き、それは平和への必至の祈りであろうと思った。

ソ連は隣国
ソ連では今、コムソモールの青年たちを中心にバム鉄道の開通に全力が注がれている。これが完成し、あの眠っている大資源に開発の手がつけられた時ソ連は名実ともに世界一の国になるであろうし、その日はそう遠くはない。

外国専用ということでした。ここでちょっととした事件？——ロシアホテルの食堂で初めてお金を使う。ルーブルは三百円。食品の値段の安いことには驚く。

食を終って友達と部屋に帰ってビックリ。カバンが開かれ、私が今回の研修旅行中一番困ったのは、何んといっても食事でした。

堅い黒パン、そしてチーズやバターをこつてり使った料理やスープ。しかも生水は飲むと下痢をするということで、お湯をもらって飲まなければならませんでした。

食事が終って部屋に帰ってくとすぐカプラーメンやインスタントみそ汁を持ち寄って食べてました。

それでも中央アジアの方に行き、日本に近づくにつれだんだん日本人の好む味になってきたので助かりました。

私は、九日目の工科大学キャンパスから下痢をし、自分の家に来ても三日間はなおりませんでした。

ソ連を見て廻って感じたことは、彼らは「愛国心」が非常に強いということです。国の為にといいことで一生懸命に働きます。

行く先々で暖かい歓迎を受け、一緒に歌い踊り、語り合った二週間、私にとって遠い遠い国であったソ連は今、ほんとうに隣国である。

平和と自由のすばらしさを再認識し、またたくさんの友人を得た今回の旅は、とても有意義で充実したものであった。

最初の予定では「コルホーズ」と「ソフォーズ」を見学する予定でしたが、現地の都合でコルホーズだけしか見せてもらえませんでした。

見学したのは綿花畑でした。水不足の畑ということで水路が入り組んでおり、畑の端が見えないくらい広い畑でした。

土質は悪くて、畑にするにはかなり苦労したということです。今でも水不足は大きな問題で、水さえ多ければ収量は十倍になるといってました。

国に収めるので収入は安定している。しかし作業は適当になる——と通訳の人が小声で話してくれました。

やはり彼らも人間だ——と逆に私はソ連人が好きになりました。

今回の研修旅行で一番楽しかったのは、ソ連人とのスポーツ交流でした。

残念ながら全敗でしたが、すっかりソ連人と仲よくなり、愉快な一日を過ごすことができました。

最後に、同行した先生方どうもありがとうございました。

出かせぎと国保

収穫作業の終りと共に今年も季節就労（出かせぎ）のシーズンとなりますが、就労先での健康を確保し自他ともに安心して働くためには、まず事前に自分の健康状態をチェックしよく知っておく必要があります。

そのためには、出発前の健康診断や必要な検診を必ず受け、自らの健康は自らで守る……という基本理念をしっかりと身につけて心がまえを万全にしておくことが大切です。

毎年このシーズンになると国民健康保険と出かせぎ先で加入した他の健康保険制度（以下社会保険等という）との関連で照会が相次ぎますので、今号から六回程度のシリーズで概要を掲載してみます。

特 被保険者証の発行

旅行やその他の理由で住所地から一定期間離れ、家族と別れて生活するような場合は、特別被保険者証（特被保険者証）を発行することができます。

出かせぎの場合も、常時五人未満の従業員しかおらず、社会保険等の適用をうけない事業所に就労する場合、あるいは雇用契約が季節的業務で引き続き四カ月を超えない期間となっている場合等は社会保険の適用除外となっていますので国保の特被保険者証の交付申請を行うことができます。

④被保険者証の交付申請を行

う場合は、社会保険等の適用をうけていない理由の証明書（事業所発行）を必要としますが、町国民健康保険では、季節就労者の便宜をはかる意味から申請があれば、証明書がなくとも特

を発行し就労後直ちに証明書を送付してもらうという便法もとっています。

社保加入の届出 14日以内に

常時五人以上の従業者を雇用している事業所の大半は原則的に社会保険等の適用事業所となっています。これらの事業所に就労し社会保険等の資格を取得した場合は、それまで加入していた国民健康保険の被保険者証を添え役場（国保）に届出が必要

要です。この場合も事業所の健康保険等加入した旨の証明書が当該被

保険者証の呈示が必要です。届出は十四日以内が原則で、④被保険者証の交付申請や社保等加入の届けに必要な証明書用紙は出かせぎ就労袋に同封してあります。

世帯主の社保加入は 必ず家族も一緒に

出かせぎ先で世帯主が社会保険等の資格を取得する場合は、扶養家族にも社保資格を取得させ、遠隔地の被保険者証を発行してもらおうことを忘れないでください。

また役場への届出と同時に、かかりつけ診療機関への届出を行わないと、資格喪失後も国保資格のままの受診という結果になり後日国保から給付分の返還を求められることもあります。特に被扶養者とした家族にこのケースが見受けられますので十分周知くださるようお願いいたします。

主婦の貧血

深く静かに潜行する

自覚症状が少なく発見しにくい

美人薄命より、丈夫で長持ち―家族生活を支える家庭の主婦は、何よりも健康が第一です。ところが、最近、主婦の間で高血圧や心臓病、糖尿病などが増える傾向にあります。これは偏食・欠食・過食などの間違った食生活や運動不足が主な原因で、肥満や貧血などの不健康要素も目立って多くなっています。なかでも貧血は、肥満や他の病気と違って、比較的自覚症状が少なく、発見しにくいのが特徴です。十月一日から一カ月間「食生活改善普及運動」が実施

されます。この機会に健康診断を積極的に受けるほか、正しい

横着こそ貧血予防の敵

手まめな食事づくりを

偏食や欠食は、貧血予防の大敵です。もしやあなたは、ほっそり美人に

サラダだけになっていませんか。手間を面倒がって、朝食抜きやインスタント食品ばかり、あるいはお茶づけだけといった粗食になっていませんか。

女性の貧血の大半は、体に特別の病的出血がみられない限り鉄欠乏性貧血です。これは栄養性貧血の一つで、偏食や欠食など間違った食生活や栄養のアンバランスによる鉄分の摂取不足が原因です。

鉄分を多く含んだ食品といえば、なんといってもレバーが最高。そのほか、卵、肉、魚などの動物性食品をはじめ、植物性食品では、ほうれん草、こまつ菜などの緑黄色野菜や干しぶどう、ごま、海藻類に豊富です。

また、ビタミンCは鉄の体内吸収を促進しますので、新鮮な野菜や果物を多く取るようにしましょう。

鉄分の一日常要量は、男性よりも女性、なかでも妊婦や授乳中の女性は、男性の二倍必要です。

といっても、正しい栄養知識で、三度の食事をきちんと取れば、必要量は自然に摂取できるのが普通です。

食生活とは何か、一から洗い直してみよう。

貧血予防の心掛けとしては、鉄分だけでなく、たんぱく質やビタミンCなどバランスのとれた食事を心がけることが第一です。



住宅金融公庫便り

マイホーム建設資金（住宅積立郵便貯金預金者貸付）の融資

住宅金融公庫では、住宅積立郵便貯金の預金者への融資も行っています。

今すぐにはマイホームをつくれませんが、二年とか三年先には是非マイホームをとプランを立てておられる方には便利な方法で、その特色は、さきに紹介しました個人住宅建設資金の融資に比べて、割増し融資（一七五万円の範囲内）を受けることができることです。では、その概要を紹介いたしますのでご利用下さい。

住宅積立郵便貯金というのは、マイホームを建設（購入）することを目的に毎月一定の金額を三年から五年にわた

積立期間は、三年、四年及び五年の三つのコースがありますが、各コースとも最終的に四十三万二千円積立てることになっております。

この制度を利用して、一日でも早く融資を受けようとお考えの方は、三年コースを選ぶことです。三年コースの場合、丸二年経過すると、残金を一括積立てることにより公庫の融資を受ける途もあります。

◎詳細については、住宅金融公庫仙台支所（電話〇二二二―二七―九三一一）へ。

みんなの街です。美しく

吸いからの投げ捨てはやめましょう。

Suckin' Clean



吸わない人への思いやり

大切なエチケットです

福祉の窓

◎制度の目的

低所得世帯等に対しつなぎ資金を貸付して、その世帯の経済的自立と生産意欲の助長を図りその更生援護に資するものです。

◎貸付の対象者

町内に住所を有するもので、この資金の融通を受けることによって自立更生できる生活状態にある低所得者です。

◎資金の使途

この資金の使途は次のとおりです。

①学用品の購入、学校給食、

出かせぎされる皆さんへ

安全第1の就労を

家族への連絡は密接に

秋の収穫の訪れとともに、今年もまた出かせぎのシーズンがやってきました。

稲作の機械化が進み農作業も年々早まってきていますので、今月中にも出かせぎに行かれる方も相当いるでしょう。

出かける前にもう一度、就労先や就労条件などを確認し、本人も家族も安心した上ででかけるようにしましょう。

また、出かせぎ先での賃金不払や事故、病氣も毎年発生していますので、こうしたことに備え、出かせぎ互助会への加入と出かせぎ者の健康診断の未受診者は必ず受診をしてほしいものです。

このほか、町出かせぎ相談所では、次のような点に心がけてほしいとしています。

●就労前に、事業所の名称や住所を必ず役場に届け出て、互助会へ加入すること。

PTA、修学旅行等に必要経費。

②就職、進学、転職の仕度、家庭内職に必要な経費。

③治療、往診等医療に必要な

町社福協助け合い資金貸付規定

経費。

④風水害、火災、地震等の災害による応急措置に必要な経費。

⑤その他不時の出費に対する

資金。

◎貸付金の限度額

一般的限度額は五万円とします。ただし、事情によっては十万円までとすることがあります。

◎申込み手続

この資金の貸付けを受けようとする者は、地区担当の民生委員の証明書を添付し、「たすけあい資金借入申込書」を社会福祉協議会長に提出して下さい。

◎貸付けの条件

①利子——無利子

②貸付期間——六ヵ月～二十六ヵ月以内。

③償還方法——原則として一

●就労する事業所が変わったり住所が変わったりした時には、家族はもちろん役場にも連絡すること。

●就労前と著るしく条件が違う場合には、できるだけ早く職安か役場に連絡すること。

●留守家族との連絡は密にして、営農に支障のないよう心がけること。

●万一、病氣や事故にあった場合はできるだけ早く医師の診療を受けると同時に、役場にも連絡すること。

●自分の健康状態をみながら決して無理働きのしないこと。就労するにはできるだけ職安をとるように。

●健康診断で医師に出かせぎを止められた場合には、決して無理をして出かけることのないように。

●出かせぎ就労者手帳は三年で更新されるようになってい

ますので、その更新手続きを忘れずに、就労する時には必ず持って行くこと。

●そのほか、事業所側とのトラブルなどが起きた場合にはできるだけ早く役場に連絡す

献血ありがとう

目標上回る二百十三本達成

八月二十九日、県の移動献血車「あかつき号」が来町、農協玉米支所前など町内四カ所です。十六名の方々と町内四カ所の提供をうけ、四月と合せて今年度目標の百六十五本を大幅に上回る二百十三本の献血を達成することができました。

関係者はこの好成績に、ご協力くださった方々に対し心から感謝しています。

今回献血にご協力くださった

ること。

尚、町では今年度も出かせぎ対策関係係を上京させ、事業所側への安全就労に対する要請と、就労状況についての情報交換などをすることにしています。

方々のお名前は次のとおりです。

【大琴診療所前】佐々木重美、

浅田菊雄、佐々木松志、浅田富

蔵、小笠原キワ子、小笠原敏昭

小野実、阿部洋子、長谷山隆雄

佐々木日出夫、畑山弘子、阿部

千恵子、梅津栄一、佐々木精喜

佐々木邦夫、佐々木育、石綿国

雄、佐々木幸雄、阿部一郎、小

野重信、小野長松、浅田誠（以

上22名）

【農協玉米支所前】阿部茂、長

谷山進、小野暢子、佐々木ミヤ

子、佐々木信夫、小野善久、小

松清男、小野賢治、小野浩市、

佐々木雅広、小松富子、阿部誠

畠山京子、小野義夫、菊地英夫

佐藤謙一、高橋富男（以上17名）

【蔵小学校前】阿部久、小野夏

男、工藤保春、工藤倫子、千葉

友幸、佐々木エツ子、長谷山美

和子、渡辺秀雄、阿部久一（以

上9名）

【役場前】斎藤政子、安倍貞子

小野健、佐藤栄子、小野孝悦、

小野江美子、小松多喜子、加藤

誠、畠山紀子、伊東厚、八島修

佐藤睦、佐藤文隆、小松養治、

佐藤真、大日向力男、石渡洋子

町生活文化・農業祭

とき 53. 11. 5～7 ところ ・開発センター

・朋楽荘
・公民館

・隣近所誘い合って会場へ

佐藤裕子、佐藤和子、福田信一、遠藤三枝子、阿部美奈子、木島富久子、高橋フミ子、嶽石文弥、渡辺勝男、高橋政一、伊東健市、小野フキ子、小野肇、佐藤浩志、小松明、浅田照信、佐藤徳市、佐藤光雄、太田幸助、佐藤貴志、遠藤利彦、小松敏、高橋賢太郎、佐藤房信、阿部勲、石渡博澄、遠藤ノリ、阿部弘章、遠藤太円、高橋慶一、寅田敏雄（以上48名）
（敬称略）

町民のひろば



町の概要	
人口総数	6,462人
うち男	3,171人
うち女	3,291人
世帯数	1,472戸
面積	148.51 km ²
	(53.9.1)

女子供袖無に県民生部長賞

佐々木ミネさん 県老人福祉展で



賞状と受賞作品を手に喜びの佐々木さん

第六回秋田県老人福祉展が九月七日から二日間、秋田市の県児童会館で開かれました。
本町からは十五人の方々から二十七点が出展され、この中で佐々木ミネさん(91歳、大琴)の「女子供袖無」が見事、県民生部長賞に輝いたほか、遠藤吉三郎さん(82歳、新処)の「ビニールこだし」には努力賞が

贈られました。
この福祉展は、明るく、豊かな老後を目指し、老人による作品展、老人福祉に関する展示を行い、県民とともに老人福祉のあり方について考え、理解を深めようというものです。
会場には全県各地からこの日のために毎日コツコツと製作してきた作品、約千二百点が展示

社福だより

故佐藤晴紀殿のご遺族(大吹川、佐藤タキさん)より香典返しとして五万円が届けられました。
故人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

され、いずれも素人の作品とは思えない力作ばかりで、訪れる人々の目を驚かせました。
佐々木さんは、「...やさしやごにあげようと、楽しみに作っているの、特別、秋田の展示会に出すつもりではなかった。まさか賞がつくなんて。皆さんのお陰です、ありがたいことです」と喜びを語っていました。

空ビン回収収益金の半額を寄付 東中学生徒会

東由利中学校生徒会(小松貢治会長、二八六名)では、先ごろ、夏休み中の生徒会事業として各家庭の空ビン回収を実施した収益金の半額六万円を、町の社会福祉に役立ててもらいたいと町社会福祉協議会に寄付されました。

町社福協ではこのお金を、より充実した福祉の為に役立てたいと、心あたたまる贈りものに喜んでいきます。

これからは「福祉の時代」ともいわれ、こうした子どもたちの尊い善意の心は大切に、大きく育つよう望まれます。

くらしの知恵

調味のコツはサシスセソ

料理を作る時に使う調味料も、使い方によっては調味料としての効果が得られないということがあります。

調味のコツはサシスセソとよくいわれますが、サは酒、砂糖、シは塩、スは酢、セはしょう油、そしてソは味噌と

いうことです。これは味のしみやすさや、風味を保つなどの順となつていきますので理にかなっています。

このサシスセソも、味をゆつくりしみ込ませたい時は、少しづつ何回にも分けて加えます。また、中華料理のように、調味

阿部ナミさん 県社会福祉大会で知事賞

より豊かな福祉社会をめざして——を統一テーマに、秋田県社会福祉協議会が主催する昭和五十三年度秋田県社会福祉大会が、八月二十二・二十三日の二日間、秋田市の県民会館で開催されました。

席上、本町蔵の阿部ナミさんが、社会福祉施設従事功労者として、栄えある「秋田県知事賞」を受賞しました。

阿部さんは、長年にわたって永慶保育園の主任保母として、社会福祉事業の推進に貢献してきた功績が認められたものです。

二個人・三団体が共同募金で表彰

先ごろ、昭和五十二年共同募金多額寄付者として、次の二個人と三団体に社会福祉法人秋田県共同募金会(笹村ミヨ会長)から感謝状が贈られました。

靱乾燥機械の使用 火災予防について

例年秋の収穫期になると、各地で靱乾燥機からの火災が発生しています。

このほとんどが、機械操作の誤り、燃焼機関の不完全整備による異常燃焼、監視人不在の原因とが重なり、非住家であるため発見が遅れ、莫大な損害を出しています。

広域消防東由利分署では、こうした不幸な火災を防止するため、必ず消火器を設置するとともに、機械の点検整備、使用中の監視を充分にして、機械を過信することなく、火災予防に万全を期してほしいとしています。



誕生 おめでとう

慶弔

8月21〜9月20日



結婚 おしあわせに

小野 信雄 寺田
佐藤 和子 本莊市
遠藤 謙一 十二ノ前
工藤 ヨシ子 高村

・お悔み申し上げます

佐藤 晴記 大吹川 21歳
佐藤 マツヨ 田代 80歳
大庭 トヨエ 蔵 79歳
真田 竹也 袖山 22歳